

【今年の運氣】

ダイジェスト版

令和4年『壬寅(みずのえ・とら)五黄土星(ごおう・どせい)』

(令和4年2月4日～令和5年2月3日の運氣)

『九星気学』とは

森羅万象(しんらばんしょう・この世のあらゆる現象)の営みは、「陰陽と五行(木・火・土・金・水)」の作用によって構成され、これによって自然界・人生途上に生じる現象を統計学的に考察した学問。一般にいう「占い」とは一線を画します。その起源は4000年以上に遡(さかのぼ)ります。

現在、立正佼成会ではこの『九星気学』を「時代予見」「動静掌握」「精進目標の設定」の補助的手段として用いており、菩薩行促進の一助、一乗真実への方便力として活用しています。

『壬・寅・五黄土星』の意味

壬(みずのえ)の文字は、糸が糸巻にぐるぐると巻かれた状態を表します。機織(はたおりの場合、その糸巻は「縦糸・たていと」として使われます。機織りは、まず「縦糸」を決め、そのあとで横糸を通して編んで行きます。縦糸が織物の基本となることから壬に「もと・大本・根底・根本・根幹・基本」の意味を持ちます。壬の年である本年、大切にしたいことは、「根幹・根本とは何か？」「そもそも大本は何か？」を心して行くことが大切になります。

寅(とら)の文字の象形は、矢を両手で真っすぐに伸ばしているさまを表しており、このことから、「手を合わせる」「拝み合う」「約束する」「協力する」「助け合う」「慎む」「間違いがないよう気をつける」「控えめにする」「畏れる」「伸びる」「真っ直ぐに伸ばす」「紐(ひも)で絡んでいたものがほどけて伸びゆく」「新しき事を始める」の意味を具えています。寅の年である本年、大切にしたいことは、「協力するとは何か？」「慎むとは何か？」を心して行くことが大事になります。

五黄土星(ごおう・どせい)の意味は、「本来・全体・土台・大本に戻る・原点に戻る・火・焼失・貪欲・欲・衰弱・滅する・消滅・故障・粗悪・変質・腐敗・変化・朽ちる・破綻・悪化・膿む・老化・衰弱・貧弱・病氣・死・死滅・毒・毒化・盗む・中毒・古い・旧式・持病・熟する・熟成・甘い・支配・責任・支配者・責任者・中心・中央・全身・腹部・五臓六腑」です。したがって今年は、「些末(さまつ)なことや、一部にとらわれずに、全体を見回す」「大本・原点を大切にする」「変化・朽ちる・衰弱するということを覚悟して、そのための準備を怠らない」「正しい支配を心がけ、責任を全うする」「欲をかかず、腐らない」などを心して行くことが大切な一年です。

『今年(壬・寅・五黄土星)の展望』 (令和4年2月4日～5年2月3日)

《全般・信仰生活》

『壬・寅・五黄土星』の気的作用を受ける本年。この年の運行の気に乗れ、それによって自身の運氣を高めて行くための大切な「実践行」は・・・以下の五つです。

- ①『大本を見詰めよう』(自己の尊厳に気づき、心を正し、人には優しい言葉を使おう)
- ②『人に力を貸そう。協力を惜しまない』(自分の都合よりも全体の都合を)
- ③『感謝を忘れない』(当たり前なのに感謝を深めよう)
- ④『責任逃れをしない』(すべては自分だと受け止めていこう)
- ⑤『想定しない変化に遭遇しても、ブレない心』(大切な目的を見失わず、自分の力を信じる)

①『**大本を見詰めよう**』(自己の尊厳に気づき、心を正し、人には優しい言葉を使おう)

今年の十干「壬」は、「も・大本・根底・根本・根幹・基本」という意味を持ち、また九星の「**五黄土星**」に「**本来・全体・中心・大本にもどる**」の気を具えていることから、今年は特に目先のことよりも「**大本・根本・根幹**」を大切にすることが大事になります。また、「**大本・本来**」を知るとは、「**ほんとうの自分を知る**」ということでもあります。「ほんとうの自分」は、「**仏**」と同じ「**尊い**」存在であり、**『どんな問題にも打ち勝ち、乗り越える「力」というものを具えているのだ』**ということを感じることです。言い方を変えると**『自己の尊厳性』**をしっかりと見据えることだと言えます。「自分の尊さ」を信じ、「自分の力」を信じるのが今年は大切になります。

しかし、この「**大本・本来**」を見詰めようと思っても、なかなか「**大本**」というのを見ていくことができません。この「**大本**」を見詰めることは、それは「**自分の心**」を正しく立て直して行くこと、**自分自身を「真っ白な心」に整えて行くこと**、「**波立たない平らな心**」を心がけることによって果たして行くことができます。それによって「**大本**」というのを見て行くことができます。あれこれと目先の欲にとらわれず、感情的にならないように「**自分の心**」をコントロールして行くことです。

この「**自分の心**」をコントロールすることは、言うに易く、行うに難(かた)しですが、じつは「**感謝のことば**」や「**穏やかな優しいことば**」を心がけることによって「**自分の心をコントロール**」をしていくことができます。「**優しいことば**」「**穏やかな言葉**」を口にし、それによって「**心のコントロール**」、「**心を正す**」ことが図られ、最終的には「**大本・本質**」というのを見詰めて行くことができます。「優しい、穏やかな言葉」づかいは、「**大本・本質**」を見抜いて行く大事な第一歩です。

今年、会長先生は書初めで**『素心』**と**『和言』**を揮毫されました。**『素心』**の「**素**」とは「**白・本来・大本**」の意味。したがって「**心を白く、清くする**」「**人間の大本である心を正しく育てて行く**」ことが**『素心』**です。そして**『和言』**は読んで字のごとく「**和やかな言葉**」という意味で、この「**和やかな言葉**」づかいは、己の「**心**」を「**白く、清く**」し、「**自分の心を正しく作り上げて**」行く**『近道』**であり、今年果たすべき「**大本**」を知る大切な徳行であると申せます。

②『**人に力を貸そう。協力を惜しまない**』(自分都合よりも全体の都合を)

今年の十二支の「**寅**」は、「**手を合わせる・協力する・助け合う・拝む**」の気、そして九星の「**五黄土星**」は「**本来・全体・欲**」の気を具えていることから、「**自分の欲、都合**」ではなく「**全体の都合**」を優先することが今年の運気の追い風に乗って行くカギとなります。

『世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない』という宮沢賢治の言葉は、庭野会長が法話でよく引用される仏の大慈悲心を現代的に表現した大事な価値観です。「**個の存在**」と「**全体の存在**」は別物でない“**不即不離**”であるとするこの価値観は、まさに法華経の「**価値観・世界観**」そのもので、今こそ私たちはこの価値観を、一人ひとりがしっかりと受け止めて行くことが大切だと思います。

今年1月7日の**『ご親教』**で、庭野会長は「**万物を育む太陽のエネルギーは、核分裂ではなく『核融合』によって発生している**」と説かれました。このご指摘はじつに達観で、「**エネルギーは『分裂』から生じるのではなく、『融合』から生まれる**」というご指導は、まさに私たちが生き抜いて行く人生において、**人生において必要な「エネルギー」は、『分裂』からではなく『融合』から生まれる**ということを知り深くなるべきであると思います。ですから今年、無理して「**独立したり**」「**分裂する**」のではなく、むしろ「**融合する**」こと。つまりは「**協力し合って一体となる**」を心することがとても大事になって行きます。

③『**感謝を忘れない**』(当たり前ことに感謝を深めよう)

十干「**壬**」の気「**も・大本・根底・根本・根幹・基本**」、十二支の「**寅**」に「**手を合わせる・拝む・慎む・畏れる**」の気、そして九星の「**五黄土星**」に「**本来・全体・土台・大本に戻る・貪欲・欲**」の気を具えていることから、今年「**感謝を忘れない**」「**大本に感謝する**」ということがとても大切になる年です。今年、「**ありがとう**」と言えた回数分、「**しあわせ**」がやって来る年です。一回でも

数多く「感謝の言葉」を周りの人々にしっかりと伝えて行きたいものです。

④『責任逃れをしない』（すべては自分だと受け止めていこう）

困難な状況に遭遇すると、そこから逃げ出したくなる傾向が、今年は強くなるようです。しかし今年は、そこから逃げ出さずにグッと我慢して、「自分の責任」、「自分がやるべきことをしっかりとやり通す」という強い姿勢が大切になります。これらのことは十干「壬」の氣に「根幹・基本」、十二支の「寅」に「約束する・間違いがないよう気をつける・真っ直ぐに伸ばす」の氣、そして九星の「五黄土星」に「本来・全体・原点に戻る・支配・責任・中央」の氣を持つことから示すことができます。しっかりと自分自身の腹を据え、逃げ出さないで、むしろ積極的に向き合い、「問題のすべては私の責任」だとして責任を全うする。そういう責任回避をしないで努力をしていけば、結果的には難関な道が開かれて行き、厳しい環境だと思われていたことが、一つひとつが整っていくということを経験なされるでしょう。

⑤『想定しない変化に遭遇しても、ブレない心』

（大切な目的を見失わず、自分の力を信じる）

中宮星の「五黄土星」には「変質・劣化・変化」の象意があるために、何かと変化や、想定しない出来事に遭遇しやすい一年であると言えます。今年は、その「変化」に遭遇して、オロオロしやすい年だと言えます。ではオロオロしないためには、どうすれば良いのか。その第一は「正しい目的を見失わない」ことです。浮ついたことや、目先の利害・好き嫌いに心を寄せるのではなく、人として「大切なこと」を見失わないことが大事になります。いま自分が行っていること（仕事や行動など）や、いま行おうとしていることは、「そもそも何のためのものか」ということをおろそかにしないことです。「目的」というものを「正しく見据える」ことが、今年はとても大切になります。「神仏は解決できない問題を、その人には与えない」のです。今年に想定しない「変化」に遭遇しやすい年です。だからこそ日ごろから「自分自身の力」を信じ、常に「正しい目的」を見据えて、変化に遭遇してもブレない心を作っていくことがとても重要になります。

『生まれ年による今年の運氣』

注意：1月1日～2月3日生まれの人は、前年の生まれ年となります。

（例：昭和48年2月3日生まれ⇒前年の昭和47年生まれとみます。したがって「一白水星」）

なお、満10歳未満の人には作用しません。主に青年期以上の人に影響する運氣です。

いっぽくすいせい

《一白水星》 明治42、大正7、昭和2、11、20、29、38、47、56、平成2、11、20、(29)年生まれ

『自己を省みる』と『陰徳を積む』年。運勢においては「最も低い」状態であり、衰運期です。交際・契約・交わりに凹みを生じ、「破棄・衰退」を生じます。したがって「万事塞(ふさ)がり」、気力・体力が「塞がる」年。精神的にも落ち込みやすく、行動が「鈍り」がちになります。金運は不調。資金不足で出費に悩まされます。「約束」を反故(ほご)にしやすいため注意を要します。しかし、悲観をする必要はありません。四季には必ず「冬」があり、それは来るべき「春」を前にした大切な時季を意味します。今年はその大事な「冬」であると言え、そのために今年、大事にしなければならないのは、「初志貫徹の強い意志」を固めることが大事です。決して「愚痴」を言わず、「着実」に「誠実に努力」する姿勢が必要です。大地に水が徐々に浸透するように「地道」に「黙々」と努力することを学べる大切な年です。この事に徹すれば、盛運期に入る来年夏以降、周囲も驚くほどに素晴らしい飛躍を遂げることができます。今年に「強引に進めず」、しかし「堅固な意志」を持つことが求められます。他者に向けて強引さを表してはなりません。強引は再び破棄、衰退の現象を生む結果となります。心身共に凹みの状態であるために、「焦り・怒り・不安」の念を抱き易くなりますが、この時こそ、「己の心を磨く好機」だと受け止め、「怒らない・咎めない」を心す

ることが肝心です。来年以降の盛運期に備えて、「辛抱して励み」、「自身を見詰める・内省」を心がけ、「自身の修養」に努めることが肝要な年だといえます。「報いを求めず、私利私欲に走らず」、「まず人さまの姿勢を貫くことが大切です。今年は「艱難辛苦・苦勞」が多く生じますが、すべて成長を前にした必要な「苦勞」だと心得ましょう。また今年は「秘密の漏洩・水難」にも注意。「酒色」に溺れやすく、今年の色情は良い相手に恵まれず、最終的には異性に翻弄、剋される結果となります。年の中期(8月頃)には特に注意。この年に結んだ色情缘は直ぐには切れず、最低5年間はその縁から抜け出すことが出来ません。この年の異性との出会いは深い関係に陥りやすいことも特徴です。冷静な判断と情に溺れない理性が求められます。

【健康上の注意点】 血行不良・リンパ腺・腎臓・泌尿器・背中・皮膚・足・婦人病・痔

じこくどせい
《二黒土星》 大正6、昭和元、10、19、28、37、46、55、平成元、10、19、(28)年生まれ

『努力・準備』と『人を育てる』年。前年の衰運の気が残っているために、未だ運気は伸びず上昇を見ません。しかし年の中期(8月頃)を過ぎた頃から好運期の兆しが現れ始めます。来る盛運期への「準備期間」だと心得て、「実力養成」の時であると位置づけることが大切。「地道に努力」し「基礎固め」に徹することが肝要です。「思いつき」や「無謀な挑戦」に着手したくなりますが、「結果を急がず」、「軽挙妄動・独断・強引」を慎んで、一つひとつ「努力」して積み上げることを心がけることです。そして「途中で投げ出さず・投げやりにならない」ことが大切です。「焦り・短気」は禁物。「焦り・短気」は取り返しのつかない問題を生むことになるので要注意。「忍耐・誠意・誠実」の精神を貫くことです。この時期に「報いを求めない・奉仕・思いやり・慈愛の行」の実践に徹すれば、己の人徳を高めることになり、その結果、来る盛運期でさらに飛躍し、運気を伸ばすことができます。「準備期間」の年であるために、十分な「徳分を積む」ことが最も大切な年。今年は、すべての面において「感謝」の心を忘れず、真面目に「勤勞・精励」することが重要です。触れ合う人々との調和を心がけ、生活面では規律正しい生活を送れば、大いなる成長・育成を達成することができます。今年8月以降、素晴らしい飛躍をすることになります。今年の状態を植物に譬えると新芽が出た状態です。何事も「育てる」心で「着実に努力」していけば、大いなる成長を果たすことができます。今年「人材育成」の好機であるため、他者に対して「育む心」で接し、「下位者・部下」を大切にすると好機を迎えたと言え、素晴らしい人材育成を図ることができます。また今年「変化変動」の気を受ける年なので、自身の地位・環境に変化が生じます。親しい人との「別れ」も起こりやすい年ですが、「別れ」には悲しい別れだけでなく、祝福すべき「別れ」もあります。たとえば子どもの独立などがあげられます。また「古い問題」の再燃、「古い病氣」の再発、「持病」の悪化の可能性があります。特に「家族の和」を大切にすること。とりわけ家庭では、母親、妻を大切にしなければなりません。また、婦人、女性の気を受ける年ですから、女性の意見や助言に助けられることが多く、女性の意見には素直に耳を傾けることが大切です。母親・妻・婦人・女性をおろそかにすると運気上、大きなダメージを受けることになるので要注意。「変化・変革」の気を受けるため、万事「準備・育成」の時期だと心得て「成果を焦らず」に「着実に努力・勤勞」を心がけることが必要です。そうすれば、8月以降の盛運期に、さらなる運気の飛躍が約束されます。

【健康上の注意点】 消化器・血液・既往症・腰・肩こり・肥満・手足

さんべきもくせい
《三碧木星》 大正5、14、昭和9、18、27、36、45、54、63、平成9、18、(29)年生まれ

『夜明け・輝く発展』の年。「陽が昇る運気」の年です。「勇気」が湧き、「気力・体力みなぎる」年です。事業・仕事も「伸び」、「新しいことを実行」する好機です。目的達成に向けて大きく「飛躍」する年。盛運期の幕開けであるために、何事も「積極性」が求められます。逆に「躊躇・逡巡」は、折角の好機を逃すこととなります。善し悪しを問わず、今年「伝聞・評価」を受ける年ですが、その評価に左右されず、自分の信念に基づいて行動を貫くことが肝心です。また盛運期であるた

めに、ともすると「独断・過信・自信過剰」になりがちです。「謙虚」を忘れてはいけません。「自信過剰」から「軽挙妄動」することにもなるので要注意。しっかり考え決断するという「熟慮断行」の姿勢が大切。これまで準備してきたものを実現する好機ですが、ただし準備不足だったものは、結果的には形に成らずに終わることがあります。成果を「焦って」はなりません。焦ると新たな大きな支障、挫折を生むこととなります。今年の「焦り」は運気を逃すこととなります。また成功しても「有頂天」にならぬよう心がけることが大切。有頂天は結果的に軽挙妄動を生じ、十分な成果を手中に収めることができません。成功を取り逃がすことにもなりかねません。また「虚言」に惑い、自身も「失言」を生じ易いので、自他共に「発言・言語・会話」には注意を要します。今年には「言葉」の影響力を強く持つために、大切なことは他者を「讃え・癒し・感謝」の言葉を述べることです。さらには「正法」を説くことを実践すれば、盛運期に乗じてさらなる開運を得ることができます。この年は「お導き」することが最高の年です。お導きの功德が最高の形となって現れる年ですので、お導きをすることが最も求められます。今年には「活気」が生じ、「多忙」になりがちです。したがってこの年こそ「和顔愛語・笑顔」に努め、周囲との「協調」を忘れないよう心がけます。多忙になるために収入も増えますが出費も増加します。善くも悪くも隠れていたことが「明らか」になり「表面化」します。したがって過去の善行が評価されますが、同様に過去の悪行も露見します。何事もつまびらかになる年。今年、「青年」に助けられることが多くあります。青年を大切に、青年の意見に耳を傾けることが必要。また「火の取り扱い・火災・落雷」にも要注意。

【健康上の注意点】 咽喉・言語機能・肝臓・胃・手足のしびれ・舌・毛髪

しろうもくせい

《四緑木星》 大正4、13、昭和8、17、26、35、44、53、62、平成8、17、(26)年生まれ

『万事整い』、『迷わずこの道を行け』の年。「盛運期の年」です。運氣好調で「業績」は伸び、心身ともに健全で「諸事順調」に整います。充実感を覚え、人生の素晴らしさを実感できる年です。何事も「成果が現れる」ので「積極的に」行動することです。消極的な姿勢は運気を逃します。今年には「希望の達成」が可能で、ただし結果に酔い「自惚れる」ことなく、周囲に対する「感謝」を忘れてはいけません。今年には万事整い、人々からの「信用」を得、事業・営業・取引・商談が「成立」します。特に「遠方」との交渉事がまとまる年です。結婚適齢期であれば「縁談」も整います。諸事順調に整う年。また「人間関係の拡大と充実」が図られ、その結果、交際費、遊興費の「散財」が生じやすいので、収支の在り方には注意します。しかし、これまで善行を積まずに自分の利益だけを追求し、自己中心の行いであった者は、今年の盛運の気を得ることはできません。自己中心の心を改め、「人のために尽くす・慈悲行」を実践し、今年の盛運の気を自分のためではなく「他者のために使う」という心になれば、開運の鍵を得ることが出来ます。まずは自己中心の心を改換することからはじめ、他者を慈しむ心への転換が、さらに盛運となる第一歩です。この盛運の好機に「人のために尽くし」「積極的に徳分を積む」ことを心がければ、さらにより良き人生を築き上げていくことができます。今年には「人徳を高める」絶好の年であると言えます。また「遅延・不成立・詐欺・詐称・ごまかし・もめごと」の事象に遭遇することがあります。このような事態に遭遇したならば、これまでの行いを謙虚に「反省・懺悔」し、見返りを求めずに「真心を尽くし」、何事も「誠実」に臨み、周囲への「感謝」に徹すれば、遭遇した難事を乗り切ることが出来ます。もちろん、自らが「遅延・遅刻」し「不成立・ごまかし」を犯さないことは当然ですが、諸事順調な年だけに「慢心」でいると、過ちを犯すので要注意です。周囲との「和合」を大切に、「謙虚」を忘れず、「誠実に努力」する姿勢を貫けば、盛運の気をさらに伸ばすことができます。今年、体調を崩すと「長期化」する恐れがあるので、盛運期ではあっても健康管理には注意を要します。不調であれば早めの手当てをすることが大切です。今年を植物に譬えると植物が繁茂し、満開直前の九分咲きの状態です。盛んなる成長期であるために、運氣上昇の今年には、「謙虚」になって精一杯「努力」するという姿勢が大切。ただし「猛進・独断・多欲」は慎む。このことを慎まざると、折角の好機を正しく生かせません。また「交通事故」には注意を要する年。

【健康上の注意点】 感染症。風邪・胃腸・肝臓・血管・神経系・食道・大腿部・腋・手・毛髪

ごおうどせい

《五黄土星》 大正3、12、昭和7、16、25、34、43、52、61、平成7、16、25、(令和4)年生まれ

『すべて、これまでの自分が現れる』年。良くも悪くもここ数年(8~9年)間行ってきたこと。前年の最大の盛運期を終え、徐々に運氣下降の兆しが生じます。年間を通して盛運期に位置していますが、前年ほどではありません。今年、「八方開き」の人と「八方塞がり」の人に分かれます。この違いは、これまで善行・徳行を積んできたか否かで決定されます。また今年善しにつけ悪しにつけ、過去8年間の自らの行為の「総決算」が現れます。これまで誠実に努力してきた人は「喜び」が生じ、反対に怠って来た人は「厳しい現実」を目の当たりにします。今年、生じた事象はすべて「自分が行ってきた結果」だと「謙虚」に受け止めることが必要です。不都合なことに遭遇しても「他者のせい」にせず、「すべて自分」だと受け止める姿勢が大切です。「人を咎め」てはなりません。ともすると「人を責める」心が生じ、「反発・争い」が起きやすい年ですので、何事も「謙虚」になって「強引」を控えることです。今年浮き「沈み・変化・変動」の気を受けるために、精神的にも浮き沈みがあり「好不調が合い交じり・ムラを生じ」やすいので注意を要します。試行錯誤で「迷い」も多く生じます。したがって「愚痴・腐る気持ち」の言動を起し気味なので、何事も「堪忍自重」する心の姿勢が大切です。またこの「腐る」気は、他者から外圧によって起こるのではなく、自身の「足もと・内部」から発し、自らが「腐り崩れる」という気です。したがって「足もと」を疎かにせず、「生活姿勢の基本」を正し、「足許の実践・基本信行」をしっかりと実践することが必要です。また家族の問題を抱えやすいので注意を要します。平素から「家族の和・正しい生活」そして「家族ぐるみの信仰・仏法の家庭内実践」を行うことが肝心の年です。今年「古い問題」が原因で「周囲との軋轢」を生むことがあります。「和合」を重んじて「強引」を控え、「謙虚」の姿勢が必要です。そして「古い問題」の再燃や、「古い病気・持病」の再発・悪化に注意を要する年です。今年を植物に譬えると、花が満開を終え、実りを迎える前の花が散り行く状態です。花が散りゆくことを不満に思わず、実りを迎える「前兆」であると受け止めて「感謝」の気持ちを持てば、必ず実りを得ることができます。眼前の一つひとつを感謝し「満足」して「強欲」を慎むことです。また、新たなことに目が行き、拡大拡張を手掛けたくなる「欲望」が増大しますので注意します。小さな利で満足する「少欲知足」の精神こそが今年の開運の鍵です。「新規事業・事業の拡大」は控えることが賢明です。今年、「調和と感謝・謙虚」を貫けば、運氣の下降を抑えることができ、周囲から大きな助力を得、運氣の安定を図ることができます。

【健康上の注意点】 心臓・膵臓・大腸・発熱・熱中症・食中毒・腫瘍・化膿・便秘・火傷・既往症・解毒

ろっぽくきんせい

《六白金星》 大正2、11、昭和6、15、24、33、42、51、60、平成6、15、(24、令和3)年生まれ

『天の助け』を受け、これまでの努力の『集大成』の年。花の満開を過ぎ、「実り」を迎える年。これまで努力していたことがようやく「成果」が見え始めます。完全に収穫をする時期ではなく、収穫直前の状態にあります。しかし「集大成」の時であることには違いはありません。今年「円熟期」であって「これまでの努力」が評価される年です。「収穫直前」であるために、新しい事業着手は避けることが賢明。「気力・活力も充分」なため、何事も積極的に取り組みたくなります。しかし今年「まとめ上げる年」ですので、未経験の分野や新規事業への着手は「慎重」を期します。昨年は、つい無理をしがちです。しかし無理を通すと結果的に新たな無理を呼ぶことになり、本来の収穫をすることができません。「利益の深追い」をせず「多欲」に走らないことが肝心。ともすると「自分は正しい」と意固地になり、かつ「自信過剰」になりやすい傾向があります。この時「一攫千金」を求めると、本来の収穫をすることはできず、すべてを水泡に帰すこととなります。安易な利益追求はかえって運氣を閉ざす結果となります。大切なことは、何事も「独断専行」せずに周囲に耳を傾け、じっくりと考えて断行する「熟慮断行」の姿勢です。へ理屈を言わない。今年、物事の一つひとつに「達成感」を覚え、「充実感」を実感できる年です。この時に陥りやすいのは、自分自身が「完成された者」だとして傲慢の心を起こすことです。決して「権威主義的」になって人を見下さず、「謙虚」であることが何よりも求められる年です。今年「信用を得る」大事な年で

もあります。しかも「上位者」から信用を得、助けられます。私心を持つことなく「利害得失」を離れて他者に尽くせば、上位者からの信用を得て結果的には必ず利を得ることになります。そして「昇進・昇級」の事象が生じます。また「善き師・人生の師」に出会える好機でもあります。「年長者」を立て、「上位者」への礼儀を重んじれば諸事順調に進みます。また、これまでの行い次第では、上位者や権威との「対立・係争・争い」を起こす可能性があります。上位者や権威に対して反発することがあります。上位者に盲従する必要はありませんが、しかし「冷静沈着」に物事を捉え、上位者を立てる姿勢が大事な年です。また今年「気持ちも大きく」なりがちで「強気」になり「贅沢を望み」やすくなりますので、出費も多くなります。今年、最も大切なことは「神仏を敬い・先祖への感謝」に徹することです。このことを怠らなければ今年の収穫のみならず、本格的な収穫を迎える来年に、期待以上の十分な収穫を得ることができます。

【健康上の注意点】 頭部・心臓・循環器系・首・肺・皮膚・爪・裂傷・刺し傷・刃物、金属・機械の取り扱い

しちせききんせい

《**七赤金星**》 大正元、10、昭和5、14、23、32、41、50、59、平成5、14、23、(令和2)年生まれ

『収穫と感謝』の年。これまでの努力の成果を「収穫」する年です。譬えるならば秋の実りの時季であり、よろこびの収穫の時季を迎えたこととなります。年間を通して満足した「悦び多い」年です。今年の悦びは、満足感による「悦び」です。今年は精神的・物質的・経済的に「充実」します。これまでの堅実な努力が認められ、「成果・評価」を得ることができます。「資金巡りが活発化」するために収入は増加しますが、一方では出費も増えるために、「貯蓄・儉約」に努めることが肝心です。今年は「盗難」に注意を要します。投資は副業に成果がある年です。諸事順調に進むので、つい「分を逸脱した行為」をしやすいので、分を超えない注意が必要です。したがって「礼儀・礼節」を重んじることが今年の開運の鍵です。「金運にも恵まれ」、生活も安定して「交際費・遊興費」が増加しやすくなります。したがって今年は「生活が派手」になりがちなので、「快樂」に走らず、「自制・自重する」強い心が求められます。あらゆる面で「満足感」を覚えることができる年ですが、その満足が自分自身の満足だけに終わらず、他者に尽くす満足や、自分だけではなく他者と共に感得する満足であれば、今後の人生を築く上での運気を高めることとなります。自分だけの満足に終わる一年であれば、「衰運」の気が強まり、翌年以降、難儀を強いられる結果を招くこととなります。今年は自身の「発言・舌禍」には要注意です。「不用意なひと言」が思わぬ失敗を招くこととなります。平素から「驕り高ぶらず」に「謙虚」の姿勢でいることが大切。加えて他者からの「甘言・誘惑」に惑わされないよう心します。また今年は「詐欺」にも注意を要する年です。「趣味・稽古・副業・投資」には一定の成果が出ますが、決して「多欲」に走らず、「七、八分止まり」で満足する「少欲知足」の姿勢が大切です。「結果を焦らず・成果に溺れず・己を戒める」姿勢が求められます。このことに徹するならば、運気はさらに高まります。今年、「礼義・礼節」を大切にすることが今後の運気高揚に重大な影響を与えますので、「礼を重んじる」ことが重要です。そして今ある「いのちに感謝」し、あたりまえのことに感謝して「不平不満を言わず」に過ごせば、期待以上の収穫を得ることができます。

【健康上の注意点】 気管支・感染症・耳鼻咽喉・歯・舌・裂傷・刺し傷、刃物・金属・機械類の取り扱い

はっばくどせい

《**八白土星**》 大正9、昭和4、13、22、31、40、49、58、平成4、13、22、(31、令和元)年生まれ

『変化・転換』と『継承・相続』の年。「意欲みなぎり」ますが、「大きな変化」を迎える時です。好むと好まざるとにかかわらず「改革・変革」の気を受けます。「変化」には「別れ」もあります。降りかかる「変化」にとらわれず、一つひとつの努力を積み重ねていく姿勢が求められます。むしろ変化を良き方に向けて、これまでの「悪習」を改め、「マンネリ・停滞」を「打破し・改める」好機とします。これまでの在り方や旧体制に固執せず、「改革」する勇氣持つことが大切です。また「相続・継承」の気を受ける年ですので、事業や活動の相続・継承など、「つなぐ・引き継ぐ」という事象に遭遇します。この継承は単に「引き継ぐ」という継承の意味にとどまらず、一旦「終了」し、そして

改めてまた「始まる」という現象も含みます。いずれにせよ「相続・継承」を経験する年です。また今年、特に「人間関係」における悲喜を実感する年です。喜びもあれば苦労もあるというものです。常に「和」に努めていけば、充実した「人間関係」を構築・維持していくことができます。今年「合体・共同」してさらなる「力の結集」を図り、飛躍へ向かう年です。より良き協力・共同を心がけることが肝心です。また不動産に関する事象、土地に関する事象に遭遇します。「集積」の気を持つ今年、コツコツと「努力」を積み重ねると、十分な「成果」を得ることが出来ます。また「停滞・留まる」気を有しますので、何かにつけて「行き詰まり」を覚え、「気迷い・怠け心」が生やすい年です。精神的にも「気迷い」も起こしやすいため、「腹を据えた気構え」が大切です。勝てるはずが負け、儲かるはずが損をするというように「思い通りにならない」ことが生じても、「諦めず努力する」姿勢があれば、そうした難関を乗り切ることが出来ます。今年「旧態」の気を受ける年なので、「古い事象」が再発することがあります。「これまでの努力」や「過去の善行」が「再評価」されることもあれば、反対に「過去の問題が再燃」することがあります。このことは肉体上にも発生し、「古い病気」の再発や持病の悪化が生じやすい年です。こうした過去の事象の再燃・再発は、すべてにわたって今日までどのような生き方をしていたかが問われ、これまで徳行を行っていたか否かにかかります。今年、最も大切なことは「先祖に感謝・両親への感謝・親孝行」をすることです。このことに徹すれば、過去の不徳を清算して「良き変化・良き継続」を果たせることができ、意欲に満ちた年を送れ、充実安定した人生を築くことができます。

【健康上の注意点】 既往症・肥満・血行不良・骨・関節・脊髄・盲腸・筋肉・皮膚・背中

きゅうしかせい

《九紫火星》 大正8、昭和3、12、21、30、39、48、57、平成3、12、21、(30)年生まれ

『志を立てる・誓願』の年。今年「神仏を敬う」ことを忘れてはならない年です。このことに徹すれば、運気は上昇安定します。「気力みなぎり・情熱・活気」をもって何事にも臨むことができます。周囲から熱い「期待」が寄せられ、多くの「注目を集め・脚光を浴びる」年です。それだけに周囲の期待に応えられるよう情熱を注ぎ、且つ自信をもって進むことです。情熱を持たない冷めた心で事に当たることは、運気を逃す結果となります。また活力と情熱が充分であるため「自己顕示欲」も強まり、「成果を急ぎ・利を早く求め・功を焦る」傾向がありますが「焦り」は禁物です。「軽挙妄動」に走り「有頂天」になりやすく、「勢いに任せて」行動することを慎まなければなりません。「焦り・行き過ぎ・逆上」し、「感情的」になりやすい年ですので「謙虚・冷静沈着」を心がけることが肝心です。また「逆上」した人に遭遇します。「賭け事・ギャンブル」には要注意。今年「離」の気を受ける年であるために、「別離」の事象に遭遇します。人事異動等、生活の上での変化などを通して「別離」を経験します。しかし「別離」には悲しい別れだけでなく、祝福すべき「別れ」もあります。経験する「別離」を通して成長を期すことが肝心です。また今年「悩み」を抱え「他者との争い・係争」に遭遇します。訴訟は避け「和解・示談」に努めることが大切です。不用意な争い、特に感情的な争いを起こしやすい年ですので、「冷静・寛容・堅忍自重」が求められる年です。特に今年「官庁・役所」との関わり、「捺印」を必要とする「契約書類」等で過ちを冒しやすいので注意を要します。今年の気は天の陽光を一身に受けるために、あらゆることが「明らか」になります。これまで善行を努めていた人は「評価・名声・名誉」を得ますが、反対に悪行を行ってきた人は「旧悪露見」する時です。また頭脳は「明晰」となるために、「閃き」が冴えわたる年です。思考力も優れ、今後の「計画・企画を立案」する絶好の年です。自分の成すべきことが見え「決意・志」を立てる時。「知識」を高める好機の年です。「研究・研鑽」に励むと素晴らしい成果を得ることが出来ます。「学問・技芸」の向上を図る絶好の年です。しかし一方では「気迷い・二心・移り気」が生じやすく、親しい人との「対立・背反」を経験します。「冷静・沈着」を心がけ、周囲との「和」に努めることが大切です。今年「投機・相場」には利を得る年ですが、焦ると判断を誤ります。「冷静沈着」が利を生む鍵です。また今年「火の取り扱い」には注意を要します。

【健康上の注意点】 心臓・眼・頭部・耳鼻咽喉・心因性疾患・火傷・熱中症・発熱・高血圧・更年期症